

月 報

— 學 會 —

富山縣産業組合病院第8回醫學集談會記事

(昭和18年2月13日 於本院醫局)

關 剛 三 郎 報

1. 最近2ヶ年本院に於ける梅毒血清反應の統計的觀察

劉 守 燧

演者は富山縣産業組合病院に於ける、昭和16, 17兩年度の患者 35578名中 1172名に就き梅毒血清反應を調査し、その成績を報告せり。

	外 來 總 數	血清檢 査人數	陽 性			
			疑陽性	陰 性		
内 科	9825	371	W.R	17.78%	1.34%	78.97%
			M.R	18.05%	1.88%	76.54%
小 兒 科	4652	52	W.R	34.61%	3.84%	61.53%
			M.R	34.61%	9.61%	55.76%
外 科	4239	117	W.R	21.36%	1.70%	75.21%
			M.R	20.50%	2.56%	75.21%
産婦人科	2614	69	W.R	20.28%	2.89%	66.66%
			M.R	21.73%	4.34%	63.76%
皮 膚 科	2123	445	W.R	10.56%	1.57%	84.71%
			M.R	11.68%	1.79%	81.34%
眼 科	4111	32	W.R	46.87%	/	46.87%
			M.R	46.87%	/	46.87%
耳 鼻 科	5431	81	W.R	23.52%	1.17%	75.29%
			M.R	27.05%	/	71.76%
齒 科	2583	1	W.R	/	/	/
			M.R	/	/	/
合 計	35578	1172	W.R	17.49%	1.16%	77.30%
			M.R	18.25%	2.21%	75.45%

要するに本觀察は本院患者中微毒性疾患を疑はれて調査したるものであるが、總ての疾患に對し苟も疑しき點があれば直ちに血清検査を行ひ、診斷治療に不覺の失敗を招かぬ様注意すべきである。(自抄)

2. 「アルミニウム」貨幣に於ける X 線寫眞撮影技術に就て

永 田 儀 四 郎

X線寫眞に於ては原子番號，密度等が人體組織に比し餘り大ならざる物質の體內異物としての検出には多大なる技術的困難が伴ふ。これは僅少なる吸収差に依る對照度が障礙されることに基くものであつて，かゝる障礙を除去し可及的良好なる對照度を得る技術的檢索を下記實驗に依り試みた。

先づ對照度を最も障礙する散亂線に就ては 15cm 水槽中に「アルミ」1 錢貨幣を吊し，之を散亂線無濾過，「ブツキー，ブレンデ」による 1 重濾過，「ブツキー」及び「リスホルム」，兩「ブレンデー」に依る 2 重濾過の 3 條件にて撮影對比した。對照度は無濾過に於ては最も

不良にして殆んど貨幣陰影識別困難である。1 重濾過稍良好，2 重濾過に於ては前者に比し更に優れた對照度を示した。

對照度は又 X 線波長と關係ある故に 55KVP と 70 KVP との 2 條件にて撮影比較すると，比較的吸収曲線の大きな前者にあつては後者のものより良好な對照度を示してゐる。

以上の實驗より X 線寫眞的に現出し難い體內異物撮影にあつては極力散亂線の除去に努め，殊に 2 重濾過等は推奨すべき方策であり，使用電壓は可及的低電壓，軟線を以て撮影すべきであると考へる。

3. Kühns 氏の顔面に於ける貧血帯に就て

關 剛 三 郎

種々の目的で上顎或は下顎に傳達麻酔又は浸潤麻酔を行ふと，注射した液量の多寡とは殆んど無關係に，注射の瞬時に顔面の或る部分に，時として突然限界の判きりした貧血帯が現れて來る事がある。此の現象を Kühns 氏の顔面に於ける貧血帯と言ふ。Kühns 氏貧血帯の發現は二つの経過を採るものである。其の一つは大體 1 時間以内で貧血が消え，其れ以外自覺的にも他覺的にも何等の症狀を發せざる型。他の一つは貧血が消失した後大概ね 20 時間乃至 40 時間内外にして，貧血帯と略々同一の部分に皮下溢血が現れる型である。

私の經驗せし症例は 2 例共 2% 鹽酸プロカイン 2cc に 1 千倍の鹽酸エピレナミン 1 滴を加へた注射液で，浸潤麻酔を行つた際に現れたもので，自覺的にも他覺的にも何等の症狀を發しない一時的貧血であつた。

第 1 例は 51 歳の女子にして 4| 抜齒の目的で，3| と

5| との間の顴頰移行部より刺入し約 1cc 注射を了つた頃突如として，眼下線より下方鼻側を通り犬齒窩より顴骨前面に至る貧血帯を生ぜり。

第 2 例は 48 歳の女子 6| 抜去の爲め前症例と同様の注射液を以て，骨面に沿ふ様に 5| より 7| の間の顴頰移行部より刺入し，約 1.5cc の浸潤麻酔を行ひしに，これも注射開始後約 3 分間にして，眼下線より鼻背に至り下方鼻翼より犬齒窩を通つて顴骨部に至る貧血を現せり。

兩症例共患者自身何等の異常を認めず，一時的の貧血を現したものであつた。確然たる要約を決定する事は出來ぬがエピレナミンの作用によつて血管の收縮を起した結果か，或は注射針により神經纖維を刺戟し其の爲め血管の收縮が起き，一時的の貧血を來したのではないかと思はれる。(自抄)

4. 富山縣下に於ける血族結婚の頻度に就て

倉 本 政 雄
豐 田 文 一

本院産婦人科外來患者 1197 名中 70 名の血族結婚を行へるものを認めたり。即ち $5.81\% \pm 0.68\%$ にして，内譯，從兄妹結婚 63 ($5.26\% \pm 0.65\%$)，再從兄妹結婚 5 ($0.42\% \pm 0.19\%$)，三等親内の結婚 2 ($0.17\% \pm 0.12\%$) なり。

尙本調査による頻度より男性遺傳疾患の地方に於ける存在の確率を レントツ の術式により計算し，先天性嚔啞の北陸地方に於ける存在の比率は 1 萬人中 9.64 名なるを算出せり。(詳細は十全會雜誌に掲載さるゝ筈)

5. 肝油及其の製劑の保存に依る効力に就いて

越 田 吉 郎

濃厚肝油を無色瓶に詰めて保存すれば1ヶ年間に其の含有するV.Aは殆んど半減す。褐色瓶に入れた時は7%を減少するも其の空間にCO₂を以て充す時は冷暗所に保存する事に於て4%以下である。一般市販肝油の1ヶ年間に於けるV.Aの減少率は平均16.3%なるも貯蔵方法可なれば短期間に飲用し盡すものなれば無色

瓶にても障害はない。膠囊入製劑は最もV.Aの減失少く、一般に4%以下と考へて宜い。V.Dは恐らく長期の保存に耐へるものと考へられる。V.A V.Dの効力特に大なるものは特に注意して包装し保存する事必要なり。

6. 腦膿瘍の一症例

山 田 義 孝

腦膿瘍には特有の症状を缺き診断の困難なるものありといふ。患兒は10年10ヶ月の女兒にして高熱、1回の嘔吐を訴へて來院せるものにして發熱の原因明瞭ならず當時腸チフス」の流行ありたると遲脈、便秘を認めたるため該疾患を疑ひて入院経過觀察せり。入院時白血球數 12,000を算し諸種検査は腸チフス」と決する能はざりき。入院後右側耳痛あり排膿多量にして耳科受診により患兒は以前より中耳眞珠腫を有し患者側に一時治療を中止しありたるものなることを知り得たり。依つて耳科に轉じ右側頸部靜脈竇栓塞、眞珠腫に對する手術を受くること2回、その間白血球數は

26,000を算し遲脈はやゝ恢復せるも39.0°C-40.0°Cに達する弛張熱及び高度便秘の主要症状消滅せず、其他には異常を認めざりき。33%アルコール、「ズルフォンアミド劑の靜脈内注入を行へるも奏効せず、入院後29日目附添の家人と談笑し寢に就きたるも夜中突然状態急變し痙攣、嘔吐、昏睡を招來し此處に至り始めて瞳孔反射異常、ケルニツヒ氏現象、バビンスキー氏反射等を現したり。腰椎穿刺により濃厚なる膿汁を證明し、翌日死の轉歸をとりたり。本例は耳性腦膿瘍にして多くの該疾患に見ると同様膿瘍が腦室に破壊し死の轉歸をとりたるものと思考せられたり。

7. 戦争に關聯ある最近の眼科領域業績に就て

小 澤 安 彦

昭和16年、17年中に綜合眼科雜誌に集録せられた業績中、戦争に關聯あるものを求めた處、30有餘を得た

が、夫れ等の内容の大要につき紹介演述した。

8. 余等の經驗せる内科的疾患に於ける「ズルフォンアミド」劑の最高使用量に就いて

内 科 大 井 正 臣
梶 き い
中 島 よ し 子

第1例 48歳、男子、診断 肺壞疽(右側)。
「テラポール」使用、使用總量234瓦、使用方法は最初1日4瓦、38日間經口的投與せるに食慾不振、悪心ありたるを以て1日量を2瓦に減少し41日間連續服用す。副作用を認めず。尿量の減少を見ず。右側上肺葉部に認められし陰影は殆んど消失せり。

第2例 27歳、女子、診断 氣管枝肺炎。

出産直後に併發せる氣管枝肺炎にして最初左側下葉部を侵し數日後右側下葉部に轉移せり。「トリアノン」使用、使用總量69瓦、經口的投與56瓦、筋肉内注射13瓦、使用量45瓦位にて食慾不振、悪心、嘔氣を訴へたるを以て中止す。尿量の減少を認む。

病症の経過は出産直後の事として心臓衰弱強かりしも多量の強心劑の使用により危機を脱してより経過遅延

せるも全治せり。

第3例 44歳，女子，左側氣管枝肺炎。

「ネオヂセブタール」使用，使用總量114瓦，經口の投與による。副作用を全然認めず。尿量の減少なし。病症の経過は左側肺下葉部より始まり漸次上葉部に及び遂に左側全肺葉部に進展し約40日を要して下熱し全治せり。

其他多數の臨床例より觀察すれば最も副作用少なき

は「ネオヂセブタール」群，最も副作用多きは「トリアノン」群にして「テラポール」等はその中間にあるものゝ如きも，肺炎に對する作用効果は「トリアノン」群が「ネオヂセブタール」群に優るものゝ如し。而して使用上最も警戒す可きは尿量の減少にして，「ズルフォンアミド」劑使用中尿量の減少を見たる時は直ちに使用を中止し経過を注意して觀察する必要あるものゝ如く考ふ。

9. 喉頭結核の治癒例を顧みて

豊 田 文 一

演者は喉頭結核の治療法の現況に就き概述し，最近略治癒せりと思惟せらるゝ2症例に就き，その経過及び治療法を述べたり。

即ち

第1例 34歳，♂。數年前より肺結核に悩む。約半年前嚔下痛と嘔聲を訴へて診を乞ふ。局所所見は會厭軟骨右側上部に浸潤及び軽度の潰瘍あり。且つ右側假聲帶及び聲帶に著明の浸潤肥厚あり。入院せしめ喉頭内手術を行ひ，フレンケル鉗子を用ひ浸潤部及び潰瘍部の切除を行ひ，その後パンネンステール法の變法によりルゴール液と過酸化水素液の塗布を行ひ，約5ヶ月間安靜と沈黙療法を嚴守せしめたるに今日略治癒の状態にあり，且患者は何等の障礙も訴へざるに至れ

り。

第2例 28歳，♂。肺結核患者にして，咯血を伴ひ，鎖骨下に空洞を有す。約4ヶ月前嘔聲と嚔下痛を訴へ診を乞ふ。局所所見は右聲帶に著明なる浸潤あり。假聲帶の一部に肉芽組織の増殖を認む。入院を命じ，絶對安靜，頸部冷罌法を行ひ，喉頭はパンネンステール法の變法を續行し，約4ヶ月後の今日略全治の状態となれり。

以上2症例の経験より喉頭結核に於ても，症例を選び，適當なる療法，殊に喉頭内手術に適應せるものは之を行ひ，狀況を觀察しつつ治療を行ふ時は全治し得る症例も可なりの數にあり得るものに非らざるやと結べり。(自抄)

富山縣産業組合病院第9回醫學集談會記事

(昭和18年3月19日 於本院醫局)

豊 田 文 一 報

1. 妊婦に見らるゝ呼吸困難に就て

劉 守 燧

27歳の妊娠10ヶ月初期の經産婦に於て高度の呼吸困難を伴つた一症例を経験し，其喉頭所見は會厭軟骨部の浮腫性腫脹及び發赤と聲帶の水腫狀腫脹とを示し，種々の消炎療法を加へたるも緩解せず，遂に人工早産

の敢行により急速に諸症狀の消褪を來したもので歸納的に考察するならば，斯如き喉頭の浮腫性變化は妊娠に原因する一局的變化と思惟される。(詳細は治療學雜誌に發表する筈)

2. 外傷に起因せる前頭骨ゴム腫に就て

岡 本 武 一

患者 53歳，農婦。

家族歴 舉子7名，中4名生後間もなく死亡す。

既往歴 生來強健にして著患を知らず。

現病歴 昨年6月頃掃除に敷居の角にて前頭部を打ち、紫赤色に腫脹し種々醫療を受くるも緩解の傾向なく、刺へ該部の破潰を來し、爲に2月18日本院外科を訪れたり。

現症 榮養、體格共に中等度、胸腹部臓器に於ては聽診上著變を認めず、兩側鼠蹊腺拇指頭大に腫脹す。

前頭部所見はその稍中央部に位し、小兒手拳大の潰

瘍を認め、可なり深く周圍に穿窟し基底部に於ては黄白色豚脂様苔狀物を以て蓋はれ容易に出血す。潰瘍面よりは膿様粘稠なる分泌物を漏らす。潰瘍及びその周圍組織には軽度の浸潤様硬度を觸知し得。以上の所見より前頭骨微毒の疑を以て血清検査を行ふにワ氏反應(卅)、村田氏反應(卅)、レ線検査に於ては前頭骨には拇指頭大の陰影缺損を認めたり。

經過 前頭骨ゴム腫の診断の下に驅癩療法を續行せるに漸次快方に向ひつゝあり。

3. 婦人薦腰痛の一原因としての子宮附屬器血管怒張に就て

塚 田 良 作

婦人科外來を訪れる患者の訴へで薦腰痛は非常に多いものであります。内診子宮附屬器炎と同一所見を呈しまして長い間の保存療法で附屬器腫脹も輕快せず、薦腰痛も去らないものが時にあります。此の場合剔除の目的で開腹して見ますと、内性器には炎症性變化も腫瘍もなく單に附屬器血管が強く怒張して拇指大になつてゐることがあります。それで此の靜脈叢だけを剔除するか、單に結紮するだけで血管怒張もなくなり、薦腰痛もなくなります。此の附屬器血管の怒張は今迄婦人科で重要視されてゐませんでした。最近約100例を経験しましたので御報告申し上げます。血管怒張の

原因は子宮位置異常や炎症や腫瘍の壓迫等のある場合は勿論夫れであります。時に原因と認められる何もないことがあります。そして子宮體を舉上するだけで此の血管怒張は消失するものも相當にあります。此ことは薦腰痛を伴ふ子宮位置異常で内診上附屬器の肥大を認めますときに、矯正手術術式の選擇に重大であります。即ちアレキサンダー手術では主訴は輕快しないものが時にあります。こんな場合とか子宮附屬器肥大の保存療法時には附屬器血管の怒張も考慮に入れて治療に當らねばならぬと思ひます。

4. 遺尿症と Spondylolyse との関係に就て

山 田 祥 二

元來腰薦椎部には畸型多く特に脊椎破裂は Lübke は24%, Heise は22.85%, Goljanitzki は12.2%, Köhler は10%, Kümmel u. Kautz は第1薦椎では20%, Brailsford は第5腰椎に6%, 第1, 2薦椎に11%, 第5腰椎には Willis は1.2%, Lübke は1.5%を占めて居ると述べて居る。斯の如き可成りの頻度に看られる Spina bifida と遺尿症との關係に就ては夙に Virchow 以來論ぜられ現今でも膀胱神經壓迫牽引説, Fuchs の Myelodysplasie 説, 或は之れを否定する體質異常説等あるも一般には腰薦椎部骨の變化は神經の變

化を伴ふとの觀察が考へられて居る。予は本院内科外科小兒科皮膚科の腰椎部X線寫眞を對照として看るに最近2ヶ年間に於て183例中11例に Spondylolyse を認め約6%に當る事を識つた。據つて皮膚科小兒科を訪れた夜尿症11例は全部 Spondylolyse を證明した點から、Spondylolyse は夜尿症を招來するとは限らぬが、夜尿症には Spondylolyse は隨伴するものなる事を強調したい。(本要旨は第138回皮膚科學會金澤地方會にて發表す)

5. 富山縣に於ける冬季間學校教室內空氣検査結果成績報告

富山縣高岡保健所 小 川 宇 三 郎

1. 緒 言

學校衛生に關しては先づ新鮮なる空氣が最も重要視

せられ第2國民の體位向上の叫ばるゝ福本縣に於ける冬季間學校教室內空氣汚染度の如何が痛切に感ぜられ

昭和17年12月より昭和18年2月に涉りて、當保健所管内たる高岡市、射水郡に於ける中等學校12教室、國民學校38教室、計50教室に於て検査を施行せり。原則として教室の中央に於て検査を実施せり。其の検査項目次の如し。

1. 教室の廣さ
1. 生徒收容數
1. 試験結果成績概評
1. 不良の原因
1. 室温
1. 濕度
1. 炭酸ガス量
1. 塵埃數
1. 細菌數
1. 掃除方法

1. 室内状況

1. 結 論

資材許さばスチーム、ストーヴ良し。

南向きの教室の階下へ低學年、階上へ女子高學年を收容すべし。

1ヶ月に1回教室に於ける生徒の席を交換すること。

高窓は水平式廻轉窓を可とす。

休憩時間は窓を開放し生徒は教室に居残るを禁ず。

火鉢は一旦廊下にて紅熾せしめたる後教室へ入れる可し。

寒暖計又は濕度計を設備し 10°C 以下にならざる範圍内に高窓開放す可し。但し授業中。

天井に通氣孔を設く可し。

6. 麻疹及其合併症に就て

山 田 義 孝

麻疹の一、二臨床的觀察と其合併症に就きて述べたり。麻疹に重要な合併症にして豫後もこの合併症により決せらるゝものなり。麻疹罹患兒の過半数に於て合併症は惹起せらるゝものにして、各種の疾病を招來するものなるも氣管支炎、肺炎、中耳炎最も多し。

5年10ヶ月の男兒にして麻疹により相次いで肺炎、消化不良症、兩側耳下腺炎、左側中耳炎並に急性心内膜炎を併發せる例を報告し該心内膜炎による心臓瓣膜症の心臓レントゲン寫眞を供覽す。

7. 眼の「ヘルペス」に就て

小 澤 安 彦

眼の「ヘルペス」に就て綜說的に述べ、且つその治療法に關しては、從來のものゝ外最近は「ズルフオンアミツド」劑、「ヴイタミン」B₂劑、「アンチモニール・ナ

トリウム・タータレート」等が使用されて居る事を附加し、併せて自己の經驗を述べた。

8. 口蓋扁桃腺の肥大度に對する見解

豊 田 文 一

演者は手術的に剔出せる200個の口蓋扁桃腺の重量を測定し次の如き成績を得たり。

即ち

- 1) 年齢的には著しい相違を認めず。
- 2) 咽頭腔内への肥大度の大小と重量の大小との間はずしも並行せず。
- 3) 個體に與ふる障碍と重量との關係は、所謂病竈

感染の根源となり得る扁桃腺は、然らざるものに比し遙に輕量なり。

以上よりして口蓋扁桃腺剔出手術の適應の選定に當り、口蓋扁桃腺の咽頭内への肥大度の如何に囚はるゝことなく、個體に與ふる障碍、病歴、殊に扁桃腺性病竈感染を重視して、手術的操作を加ふべきものなり。(尙詳細は十全會雜誌に發表の豫定)